

正に処理できるものと判断した。

除去表土については、産業廃棄物処分場でのヒアリングによると、再資源化率は約50%であるとしていることから、除去表土の最終埋立量は約63,000m<sup>3</sup>となる。したがって、表-6.15.2(2)に示した建設工事に伴う副産物のうちで埋立て処理される除去表土については、最終処分場の平成16年5月現在の残余容量(約361,000m<sup>3</sup>)や年間処理実績の約3,500m<sup>3</sup>等から判断すると、現状では除去表土の処理は十分可能と判断した。

表-6.15.2(2) 建設工事に伴う副産物の発生量

区 分	発 生 量
伐採樹木	約21,800m <sup>3</sup>
コンクリート塊	約1,600m <sup>3</sup>
アスファルト・コンクリート塊	約780m <sup>3</sup>
除去表土	約125,000m <sup>3</sup>

区 分	発生原単位	発生量
資源ごみ(ペットボトル、プラスチック類等)	1回当たり約20kg発生 回収は、週2回	5t
不燃ごみ	1回当たり約20kg発生	5t
浄化槽汚泥	1.4m <sup>3</sup> /日	511m <sup>3</sup>

注1. ごみの発生原単位は、宮古空港のヒアリング結果より算定

注2. 浄化槽汚泥の発生量は、空港排水処理計画による。